

外海地区について

外海地区は長崎市の北西部に位置し、五島灘、角力灘に面した風光明媚な場所であり、ソネが多い好漁場である。

漁業種類は、手繰網、はえ縄、刺し網で、ぶりやタイが主要魚種となっており、秋から冬にかけてはミズイカが水揚げされている。



藻場の現状と課題

外海地区は、25年ほど前は、ワカメやホンダワラ類、クロメが繁茂する藻場が広がっていたが、今は磯焼け状態となり、その原因は、ウニやアイゴ・イスズミによる食害などと考えられている。

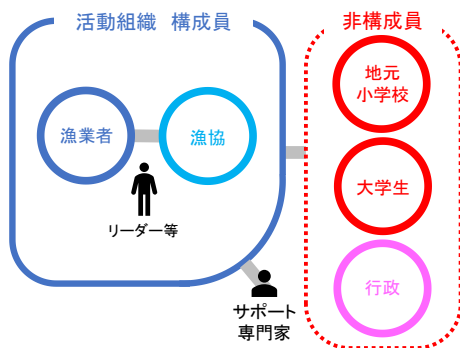
当該地区は、高齢者が多く潜ってウニを除去することができません。船上から箱眼鏡とヤスを用いてウニを除去していますが、これでは十分にウニが除去できず、藻場が回復するまでには至らなかった。



組織の設立と大学生との連携

平成25年に漁業者を中心とする、藻場の保全活動組織「外海地区活動組織」を発足させ、ウニの除去から磯焼け対策を始めましたが、このままでは、磯焼け対策が不十分と思い、サポート専門家に相談したところ、長崎大学全学ダイビング部（通称、イサナ）の学生を紹介していただき、連携することとなった。

現在の体制は右図のとおり。構成員には漁業者と漁業関係者、非構成員には地元小学校、大学生、県・市の担当者、そして、定期的にサポート専門家の指導を受けながら取り組んでいる。



●主な磯焼け対策の方針

母藻の投入	冬季のワカメロープと、初夏の流れ藻ストッカーの設置
ウニの除去	6月、11月の学生と協働によるウニ除去
植食性魚類の除去	秋季の刺し網による植食性魚類の除去
モニタリング	定期的にサポート専門家による被度と種類を観測し、効果を検証



大学生のウニ除去活動の様子はこちらから。
※この動画は全天球動画です。画面を動かしたり、指で画面を上下左右に動かしたりすることで360度を見渡すことができます。(GoogleChrome、YouTubeアプリを利用)

大学生によるウニの除去

(1) 長崎大学全学ダイビング部

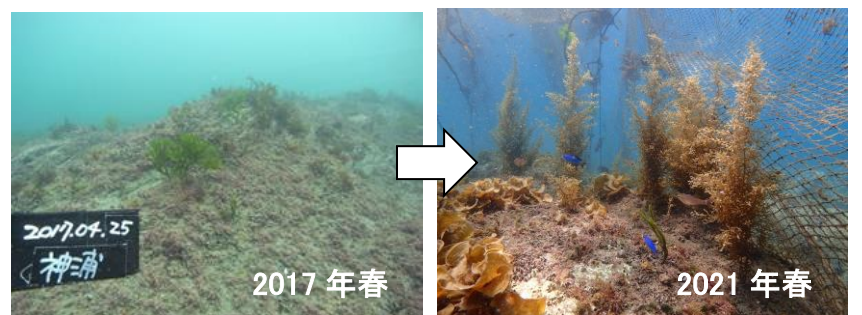
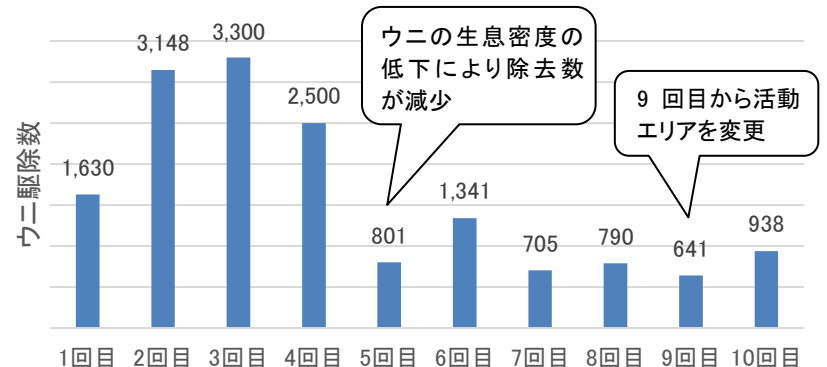
長崎大学のダイビング部は、文系と理系の学生で構成され、部員数は70名の大所帯サークルである。

海藻より魚と一緒に泳ぎたい学生ばかりでしたが、磯焼けのこと、長崎の美味しい魚が取れなくなっていることを知っては、楽しむダイビングから、役に立つダイビングとして磯焼け対策にも積極的に取り組んでいる。



(2) ウニの除去

ウニ（主にガンガゼとムラサキウニ）の除去は、5人の学生がヤスで届かない水深5~10mの水深帯に1、2時間ほど潜って行っている。潜水前には、サポート専門家からの潜水とウニ除去の指導を受け、手カギとハンマー、あるいはウニバスターを用いて海中でウニを潰している。これまでに10回学生が参加し、延べ15,507個のウニが除去された。



活動の成果と今後の課題

学生に協力してもらったおかげで、春にホンダワラ類や小型海藻が繁茂するまでに回復した。また、学生は、ダイビングによるボランティア経験ができたことを感謝し、昨年秋には直売所の看板をプレゼントした。漁業者と学生の良好な関係が構築され、活動の輪が広がっている。

